

秋 田 県 内 中 小 企 業 景 況 調 査 結 果

(2022 年 1～3 月期)

秋田県商工会議所連合会

〈内容〉

I . 全産業の項目別DI値

II . 産業別DI値

III . 地域別DI値

IV . 産業別設備投資

V . 地域別設備投資

VI . 経営上の問題点

VII～XI . 付帯調査

XII . 総括表

※ 景気判断・DI値とは、「増加」・「好転」・「過剰」したとする企業割合から「減少」・「悪化」・「不足」したとする企業割合を差し引いた値である。
(▲:マイナス)

《参考》県内景況調査に対する各企業のコメント 一覧

〈回収状況〉

業 種	対象企業数	有効回答企業数
建設業	40	38 (95.0%)
製造業	40	31 (77.5%)
卸売業	40	30 (75.0%)
小売業	40	35 (87.5%)
サービス業	40	34 (85.0%)
合 計	200	168 (84.0%)

地 域	対象企業数	有効回答企業数
県 北	50	39 (78.0%)
県 央	75	67 (89.3%)
県 南	75	62 (82.7%)

I. 全産業の項目別DI値

1. 業況

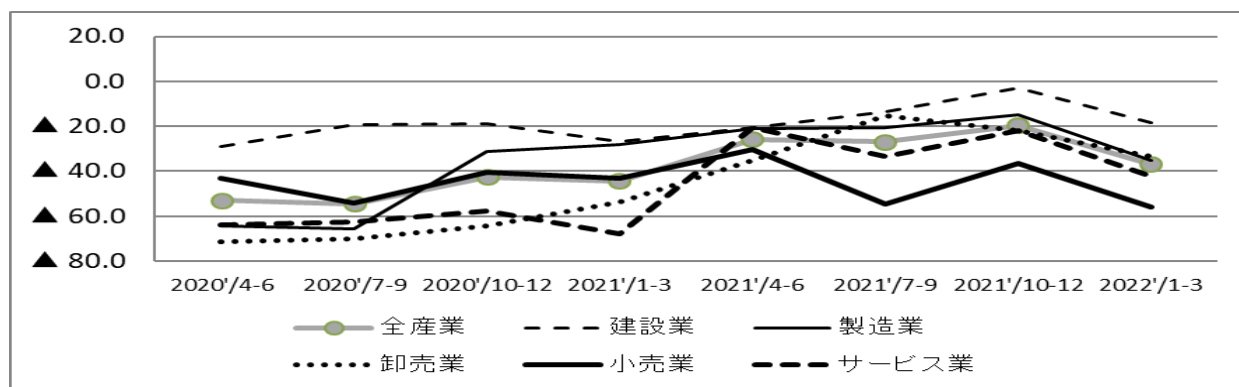
今期(1～3月)の業況DI値は、全産業で▲36.8と前期比で大幅に悪化した。

産業別では、全業種で悪化した。特に製造業、サービス業、小売業はそれぞれマイナス20.6ポイント、マイナス20.5ポイント、マイナス19.3ポイントと大幅に悪化した。

来期の見通し(4～6月)は、全産業で▲31.1と今期比で改善を見通している。

産業別では、製造業、小売業、サービス業、建設業が改善を見通す一方、卸売業は悪化を見通している。

	前期(10-12月)		今期(1-3月)			
	(A)	来期見通 (1-3月) (B)	(C)	前期比 (C)-(A)	来期見通(4-6月) (D)	今期比 (D)-(C)
全産業	▲ 19.6	▲ 32.5	▲ 36.8	-17.2	▲ 31.1	5.7
建設業	▲ 3.1	▲ 25.0	▲ 18.4	-15.3	▲ 15.8	2.6
製造業	▲ 14.8	▲ 29.6	▲ 35.4	-20.6	▲ 16.1	19.3
卸売業	▲ 21.9	▲ 28.2	▲ 33.3	-11.4	▲ 46.7	-13.4
小売業	▲ 36.6	▲ 41.9	▲ 55.9	-19.3	▲ 42.8	13.1
サービス業	▲ 21.9	▲ 37.5	▲ 42.4	-20.5	▲ 36.4	6.0



2. 売上額・完成工事額

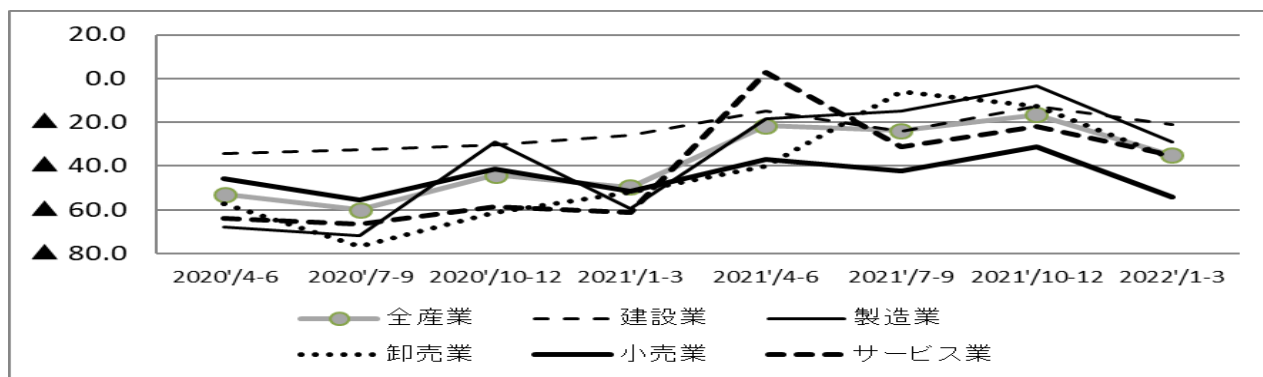
今期(1～3月)の売上額・完成工事額DI値は、全産業で▲35.1と前期比で大幅に悪化した。

産業別では、全業種で悪化した。特に製造業、卸売業、小売業はそれぞれマイナス25.6ポイント、マイナス24.1ポイント、マイナス23.0ポイントと大幅に悪化した。

来期の見通し(4～6月)は、全産業で▲24.4と今期比で改善を見通している。

産業別では、製造業、建設業、小売業が改善を見通す一方、卸売業、サービス業で悪化を見通している。

	前期(10-12月)		今期(1-3月)			
	(A)	来期見通 (1-3月) (B)	(C)	前期比 (C)-(A)	来期見通(4-6月) (D)	今期比 (D)-(C)
全産業	▲ 16.5	▲ 24.8	▲ 35.1	-18.6	▲ 24.4	10.7
建設業	▲ 12.5	▲ 15.6	▲ 21.1	-8.6	▲ 5.3	15.8
製造業	▲ 3.4	▲ 6.9	▲ 29.0	-25.6	0.0	29.0
卸売業	▲ 12.5	▲ 28.1	▲ 36.6	-24.1	▲ 40.0	-3.4
小売業	▲ 31.3	▲ 43.7	▲ 54.3	-23.0	▲ 40.0	14.3
サービス業	▲ 21.8	▲ 28.1	▲ 35.3	-13.5	▲ 38.3	-3.0



3. 資金繰り

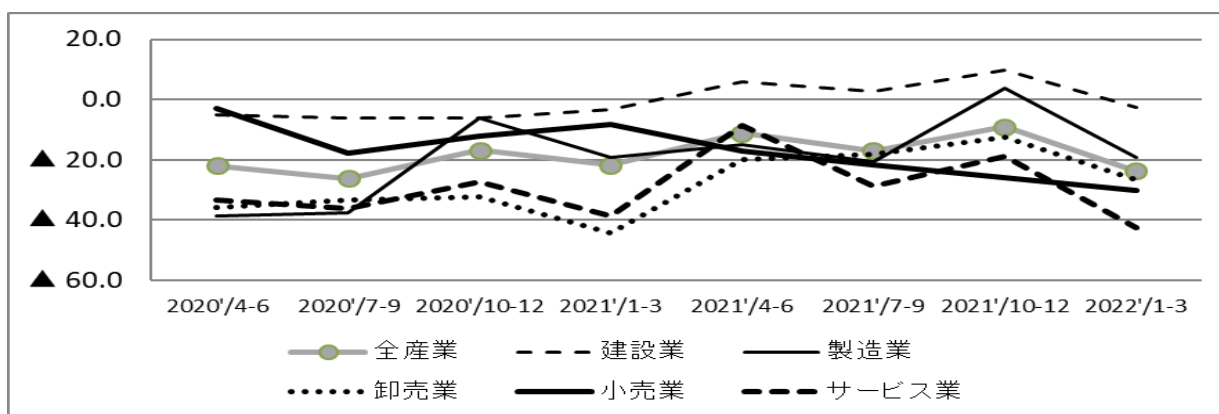
今期(1～3月)の資金繰りDI値は、全産業で▲23.7と前期比で悪化した。

産業別では、製造業、建設業がともに前期のプラスからマイナスに転じた。サービス業、卸売業、小売業も悪化した。

来期の見通し(4～6月)は、全産業で▲21.7と今期比でわずかながら改善を見通している。

産業別では、製造業、サービス業、小売業が改善を見通す一方、建設業、卸売業は悪化を見通している。

	前期(10-12月)		今期(1-3月)			
	(A)	来期見通 (1～3月)	(C)	前期比 (C)－(A)	来期見通(4～6月)	
		(B)			(D)	今期比 (D)－(C)
全産業	▲ 9.1	▲ 13.7	▲ 23.7	-14.6	▲ 21.7	2.0
建設業	9.4	▲ 3.1	▲ 2.6	-12.0	▲ 13.2	-10.6
製造業	3.7	▲ 3.7	▲ 19.3	-23.0	▲ 6.5	12.8
卸売業	▲ 12.5	▲ 18.8	▲ 26.7	-14.2	▲ 30.0	-3.3
小売業	▲ 25.8	▲ 19.4	▲ 30.3	-4.5	▲ 26.5	3.8
サービス業	▲ 18.7	▲ 21.9	▲ 42.4	-23.7	▲ 33.4	9.0



4. 受注残(未消化工事高)

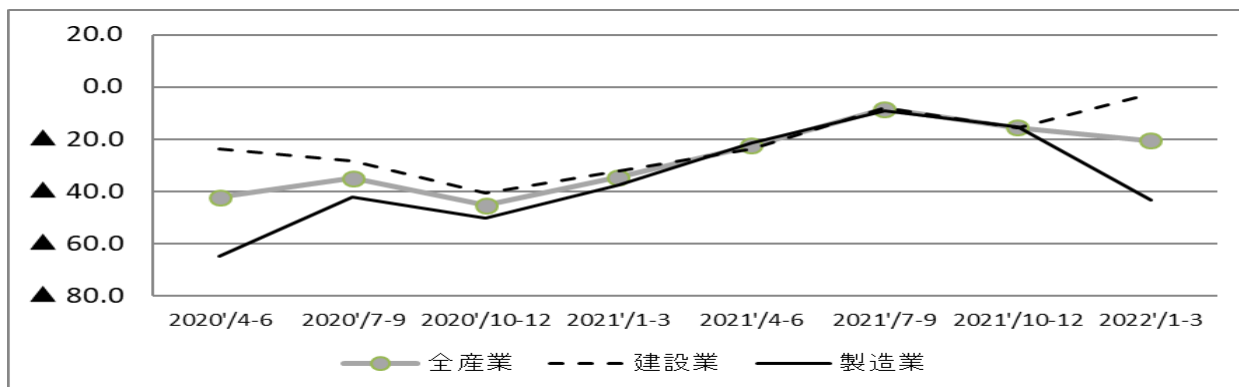
今期(1～3月)の受注残DI値は、全産業で▲20.6と前期比で悪化した。

産業別では、製造業がマイナス28.0ポイントと大幅に悪化する一方、建設業は改善した。

来期の見通し(4～6月)は、全産業で▲8.8と今期比で改善を見通している。

産業別では、建設業が横ばい、製造業がプラス26.7ポイントの大幅な改善を見通している。

	前期(10-12月)		今期(1-3月)			
	(A)	来期見通 (1～3月)	(C)	前期比 (C)－(A)	来期見通(4～6月)	
		(B)			(D)	今期比 (D)－(C)
全産業	▲ 15.6	▲ 20.7	▲ 20.6	-5.0	▲ 8.8	11.8
建設業	▲ 15.6	▲ 15.6	▲ 2.7	12.9	▲ 2.7	0.0
製造業	▲ 15.4	▲ 26.9	▲ 43.4	-28.0	▲ 16.7	26.7



5. 採算(経常利益)

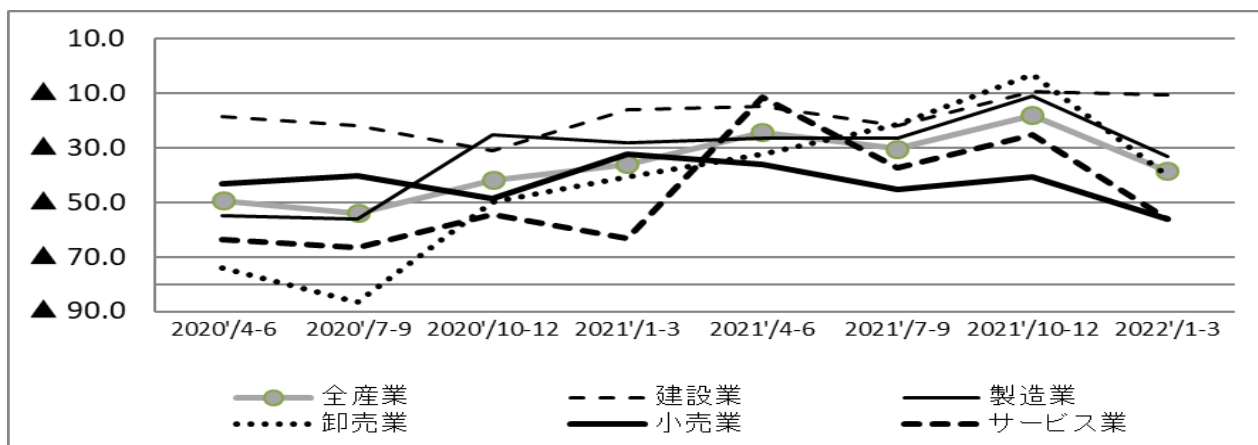
今期(1～3月)の採算 DI 値は、全産業で▲38.5 と前期比で大幅に悪化した。

産業別では、全業種で悪化した。特に卸売業、サービス業はそれぞれマイナス 36.9 ポイント、マイナス 31.2 ポイントと大幅に悪化した。

来期の見通し(4～6月)は、全産業で▲33.3 と今期比で改善を見通している。

産業別では、建設業がほぼ横ばい、小売業、サービス業、製造業で改善を見通す一方、卸売業は悪化を見通している。

	前期(10-12月)		今期(1-3月)			
	(A)	来期見通 (1～3月) (B)	(C)	前期比 (C)-(A)	来期見通(4～6月) (D)	今期比 (D)-(C)
全産業	▲ 18.0	▲ 30.9	▲ 38.5	-20.5	▲ 33.3	5.2
建設業	▲ 9.3	▲ 12.5	▲ 10.5	-1.2	▲ 10.6	-0.1
製造業	▲ 11.1	▲ 44.5	▲ 33.3	-22.2	▲ 22.6	10.7
卸売業	▲ 3.1	▲ 31.2	▲ 40.0	-36.9	▲ 50.0	-10.0
小売業	▲ 40.7	▲ 43.7	▲ 55.9	-15.2	▲ 42.8	13.1
サービス業	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 56.2	-31.2	▲ 45.2	11.0



6. 従業員(含む臨時)

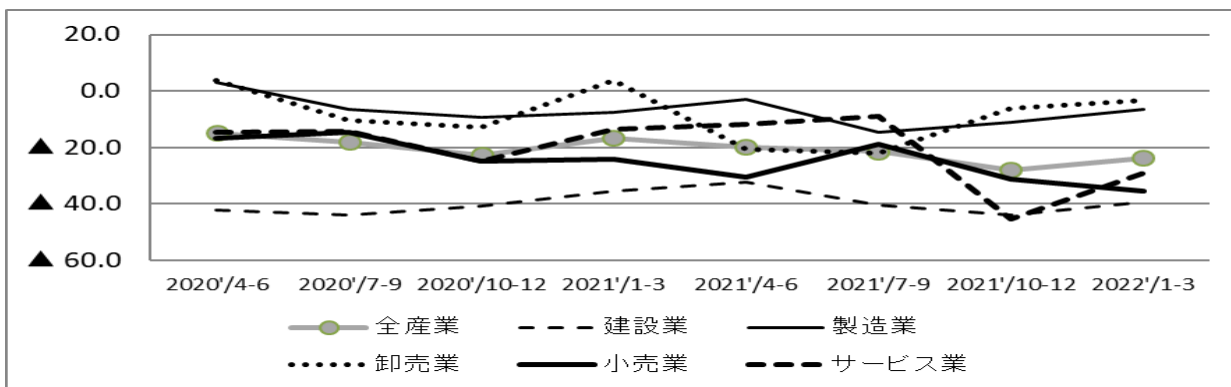
今期(1～3月)の従業員 DI 値は、全産業で▲23.8 と前期比で不足感を縮小した。

産業別では、サービス業、製造業、建設業、卸売業が不足感を縮小する一方、小売業は不足感を拡大した。

来期の見通し(4～6月)は、全産業で▲23.0 と今期比でわずかながら不足感の縮小を見通している。

産業別では、卸売業が横ばい、小売業が不足感の縮小を見通す一方、製造業、サービス業、建設業で不足感の拡大を見通している。

	前期(10-12月)		今期(1-3月)			
	(A)	来期見通 (1-3月)	(C)	前期比	来期見通(4-6月)	
		(B)		(C)-(A)	(D)	今期比 (D)-(C)
全産業	▲ 28.0	▲ 28.0	▲ 23.8	4.2	▲ 23.0	0.8
建設業	▲ 43.8	▲ 46.9	▲ 39.5	4.3	▲ 42.1	-2.6
製造業	▲ 11.1	▲ 7.4	▲ 6.4	4.7	▲ 12.9	-6.5
卸売業	▲ 6.3	▲ 12.5	▲ 3.4	2.9	▲ 3.3	0.1
小売業	▲ 31.3	▲ 21.8	▲ 35.3	-4.0	▲ 17.1	18.2
サービス業	▲ 45.2	▲ 48.4	▲ 29.0	16.2	▲ 35.4	-6.4



Ⅱ. 産業別DI値

1. 建設業

今期(1-3月)のDI値は、業況が▲18.4と前期比で大幅に悪化した。

項目別では、資金繰りが前期のプラスからマイナスに転じた。完成工事額、採算が悪化する一方、受注残は改善した。従業員は不足感を縮小した。

企業からは、「冬の工事で降雪が多く、除雪しながらの現場だったので人件費、その他の経費が多くかかり、採算が取れなかった」【土木工事】とのコメントがある一方、「降雪量増加により、除雪関連の完成工事高が増加した」【一般電気工事業】とのコメントがあった。

来期の見通し(4-6月)は、業況が▲15.8と今期比でわずかながら改善を見通している。

項目別では、受注残、採算が横ばい、完成工事額で改善、資金繰りで悪化を見通している。従業員はわずかながら不足感の拡大を見通している。

企業からは、「設備改修工事の割合が増える見込」【一般電気工事】とのコメントがある一方、「完成工事額は増加するが、採算面は物価高により悪化すると思う」【建設工事】とのコメントがあった。

	前期(10-12月)		今期(1-3月)			
	(A)	来期見通 (1-3月)	(C)	前期比	来期見通(4-6月)	
		(B)		(C)-(A)	(D)	今期比 (D)-(C)
業況	▲ 3.1	▲ 25.0	▲ 18.4	-15.3	▲ 15.8	2.6
完成工事額	▲ 12.5	▲ 15.6	▲ 21.1	-8.6	▲ 5.3	15.8
資金繰り	9.4	▲ 3.1	▲ 2.6	-12.0	▲ 13.2	-10.6
受注残	▲ 15.6	▲ 15.6	▲ 2.7	12.9	▲ 2.7	0.0
採算(経常利益)	▲ 9.3	▲ 12.5	▲ 10.5	-1.2	▲ 10.6	-0.1
従業員(含む臨時)	▲ 43.8	▲ 46.9	▲ 39.5	4.3	▲ 42.1	-2.6

2. 製造業

今期(1-3月)のDI値は、業況が▲35.4と前期比で大幅に悪化した。

項目別では、資金繰りが前期のプラスからマイナスへ転じ、受注残、売上額、採算が大幅に悪化した。従業員は不足感を縮小した。

企業からは、「オミクロン株感染拡大により首都圏の業務用向け出荷がさらに落ち込んでいる。比較的堅調であった家庭用も息切れが感じられる」【清酒】とのコメントがある一方、「鉄道部門は」

R本体の旅客の落ち込みの影響もあり、売上水準は低かったが、環境部門の売上増でカバーした形になった」【機械器具】とのコメントがあった。

来期の見通し(4～6月)は、業況が▲16.1と前期比で大幅な改善を見通している。

項目別では、売上額、受注残、資金繰り、採算で改善を見通している。特に売上額、採算はそれぞれプラス 29.0 ポイント、プラス 26.7 ポイントの大幅な改善を見通している。従業員は不足感の拡大を見通している。

企業からは「工事発注等控えており、売上、採算ともに上向きとなる見込」【コンクリート】とのコメントがある一方、「オミクロン株の感染により、業務用回復は望み薄。原油や資源価格の高騰による資材コストや運賃上昇が強まる。インフレ懸念から消費が冷え込むのではないだろうか」【清酒】とのコメントがあった。

	前期(10-12月)		今期(1-3月)			
	(A)	来期見通 (1-3月) (B)	(C)	前期比 (C)-(A)	来期見通(4-6月) (D)	今期比 (D)-(C)
業況	▲ 14.8	▲ 29.6	▲ 35.4	-20.6	▲ 16.1	19.3
売上額	▲ 3.4	▲ 6.9	▲ 29.0	-25.6	0.0	29.0
資金繰り	3.7	▲ 3.7	▲ 19.3	-23.0	▲ 6.5	12.8
受注残	▲ 15.4	▲ 26.9	▲ 43.4	-28.0	▲ 16.7	26.7
採算(経常利益)	▲ 11.1	▲ 44.5	▲ 33.3	-22.2	▲ 22.6	10.7
従業員(含む臨時)	▲ 11.1	▲ 7.4	▲ 6.4	4.7	▲ 12.9	-6.5

3. 卸売業

今期(1～3月)のDI値は、業況が▲33.3と前期比で悪化した。

項目別では、採算、売上額、資金繰りが悪化した。特に採算はマイナス 36.9 ポイントと大幅に悪化した。従業員はわずかながら不足感を縮小した。

企業からは、「前年 12 月まではいくぶん回復していたが、1 月からはガタ落ち」【清涼飲料】とのコメントがあった。

来期の見通し(4～6月)は、業況が▲46.7と今期比で悪化を見通している。

項目別では、採算、売上額、資金繰りで悪化を見通している。従業員は横ばいを見通している。

企業からは、「資材高騰が続く、需要の低迷、採算悪化が続く見通し」【建築資材】とのコメントがある一方、「商品が順調に入荷すれば売上額増加の見込」【珍味】とのコメントがあった。

	前期(10-12月)		今期(1-3月)			
	(A)	来期見通 (1-3月) (B)	(C)	前期比 (C)-(A)	来期見通(4-6月) (D)	今期比 (D)-(C)
業況	▲ 21.9	▲ 28.2	▲ 33.3	-11.4	▲ 46.7	-13.4
売上額	▲ 12.5	▲ 28.1	▲ 36.6	-24.1	▲ 40.0	-3.4
資金繰り	▲ 12.5	▲ 18.8	▲ 26.7	-14.2	▲ 30.0	-3.3
採算(経常利益)	▲ 3.1	▲ 31.2	▲ 40.0	-36.9	▲ 50.0	-10.0
従業員(含む臨時)	▲ 6.3	▲ 12.5	▲ 3.4	2.9	▲ 3.3	0.1

4. 小売業

今期(1～3月)のDI値は、業況が▲55.9と前期比で大幅に悪化した。

項目別では、売上額、採算、資金繰りが悪化した。特に売上額はマイナス 23.0 ポイントと大幅に悪化した。従業員は不足感を拡大した。

企業からは、「半導体の供給不足に加え、国内での新型コロナ(オミクロン株)の感染拡大を受け、サプライチェーンからの部品供給が停滞し、度重なる生産ラインの停止により、今期の新車販売台数が前年の約8割程度となることから減収・減益を見込む」【自動車】とのコメントがある一方、「売上

額が増加した。建築業界の好調に便乗できた感がある」【塗料】とのコメントがあった。

来期の見通し(4～6月)は、業況が▲42.8と今期比で改善を見通している。

項目別では、すべての項目で改善を見通している。従業員は大幅な不足感の縮小を見通している。

企業からは、「積雪の多かった次のシーズンは、塗料需要の期待が高い」【塗料】とのコメントがある一方、「新型コロナ(オミクロン株)の影響は解消されているが、半導体不足の影響は当面続くとされ、メーカーの生産ラインが正常化したとしても、納期の長期化の解消には時間を要することから前年同期の新車販売台数を確保することは困難となり、引き続き減収・減益を見込む」【自動車】とのコメントがあった。

	前期(10-12月)		今期(1-3月)			
	(A)	来期見通 (1-3月)	(C)	前期比	来期見通(4-6月)	今期比 (D)-(C)
		(B)		(C)-(A)	(D)	
業況	▲ 36.6	▲ 41.9	▲ 55.9	-19.3	▲ 42.8	13.1
売上額	▲ 31.3	▲ 43.7	▲ 54.3	-23.0	▲ 40.0	14.3
資金繰り	▲ 25.8	▲ 19.4	▲ 30.3	-4.5	▲ 26.5	3.8
採算(経常利益)	▲ 40.7	▲ 43.7	▲ 55.9	-15.2	▲ 42.8	13.1
従業員(含む臨時)	▲ 31.3	▲ 21.8	▲ 35.3	-4.0	▲ 17.1	18.2

5. サービス業

今期(1-3月)のDI値は、業況が▲42.4と前期比で大幅に悪化した。

項目別では、採算、資金繰り、売上額で悪化した。特に採算はマイナス 31.2 ポイントと大幅に悪化した。従業員は大幅に不足感を縮小した。

企業からは、「宿泊が1月のみ昨年より上がったが(それでもコロナ前の30%程度)、レストランや宴会場は、昨年よりひどい状況で売上も悪化(昨年の半分以上)」【ホテル】とのコメントがある一方、「降雪量が多かったので除排雪業務の売上が増えた」【ビルメンテナンス】とのコメントがあった。

来期の見通し(4～6月)は、業況は▲36.4と今期比で改善を見通している。

項目別では、採算、資金繰りで改善を見通す一方、売上額はわずかながら悪化を見通している。従業員は不足感の拡大を見通している。

企業からは「雪が深く、山への測量ができなかったが、4月に予定が入っている」【測量】とのコメントがある一方、「コロナウイルスで全く見通しが立たない。周辺の飲食店の方ともお話しするが、そろそろ店をたたむところが出てくるかもしれないと危機的な状況だと予想する」【ホテル】とのコメントがあった。

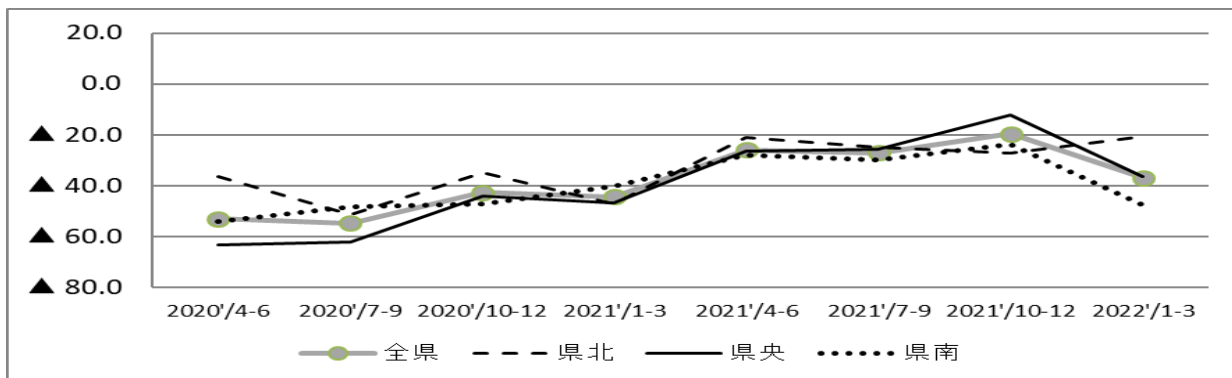
	前期(10-12月)		今期(1-3月)			
	(A)	来期見通 (1-3月)	(C)	前期比	来期見通(4-6月)	今期比 (D)-(C)
		(B)		(C)-(A)	(D)	
業況	▲ 21.9	▲ 37.5	▲ 42.4	-20.5	▲ 36.4	6.0
売上額	▲ 21.8	▲ 28.1	▲ 35.3	-13.5	▲ 38.3	-3.0
資金繰り	▲ 18.7	▲ 21.9	▲ 42.4	-23.7	▲ 33.4	9.0
採算(経常利益)	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 56.2	-31.2	▲ 45.2	11.0
従業員(含む臨時)	▲ 45.2	▲ 48.4	▲ 29.0	16.2	▲ 35.4	-6.4

Ⅲ. 地域別DI値

1. 業況

今期(1～3月)のDI値は、前期比で県央、県南が大幅に悪化、県北は改善した。
来期の見通し(4～6月)は、今期比で県南、県央が改善、県北が悪化を見通している。

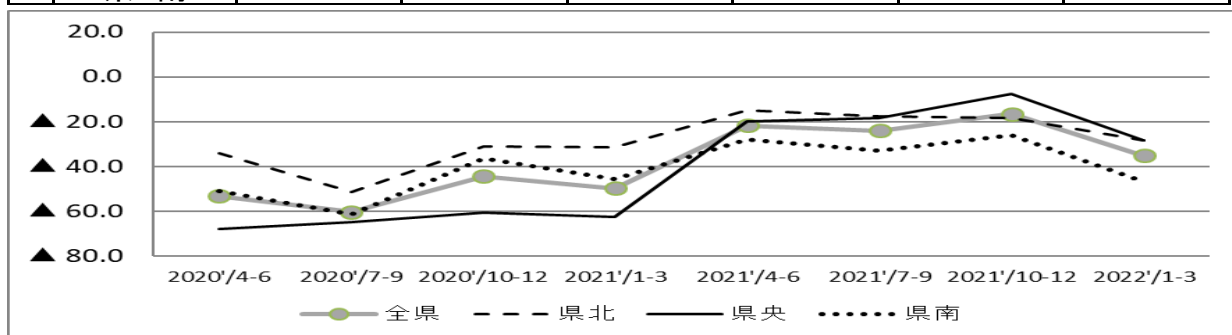
	前期(10-12月)		今期(1-3月)			
	(A)	来期見通 (1～3月) (B)	(C)	前期比 (C)－(A)	来期見通(4～6月) (D)	今期比 (D)－(C)
全 県	▲ 19.6	▲ 32.5	▲ 36.8	-17.2	▲ 31.1	5.7
県 北	▲ 27.3	▲ 45.5	▲ 20.5	6.8	▲ 23.0	-2.5
県 央	▲ 12.3	▲ 26.1	▲ 36.3	-24.0	▲ 29.8	6.5
県 南	▲ 23.7	▲ 32.2	▲ 47.6	-23.9	▲ 37.7	9.9



2. 売上額・完成工事額

今期(1～3月)のDI値は、前期比で全域が悪化した。
来期見通し(4～6月)は、今期比で県北が横ばい、県南、県央が改善を見通している。

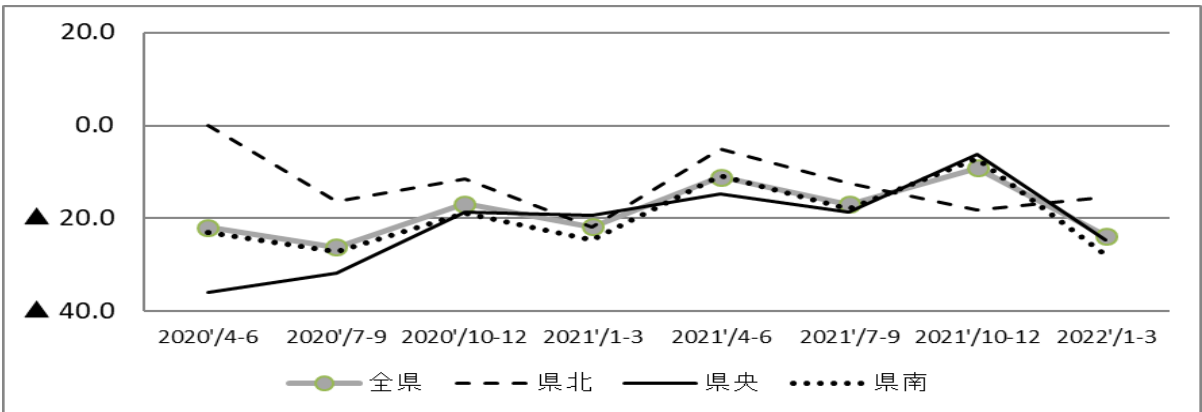
	前期(10-12月)		今期(1-3月)			
	(A)	来期見通 (1～3月) (B)	(C)	前期比 (C)－(A)	来期見通(4～6月) (D)	今期比 (D)－(C)
全 県	▲ 16.5	▲ 24.8	▲ 35.1	-18.6	▲ 24.4	10.7
県 北	▲ 18.2	▲ 33.4	▲ 28.2	-10.0	▲ 28.2	0.0
県 央	▲ 7.6	▲ 10.6	▲ 28.4	-20.8	▲ 16.4	12.0
県 南	▲ 25.9	▲ 36.2	▲ 46.8	-20.9	▲ 30.7	16.1



3. 資金繰り

今期(1～3月)のDI値は、前期比で県南、県央が大幅に悪化、県北はわずかながら改善した。
来期見通し(4～6月)は、県北、県南が横ばい、県央は改善を見通している。

	前期(10-12月)		今期(1-3月)			
	(A)	来期見通 (1-3月)	(C)	前期比	来期見通(4-6月)	今期比 (D)-(C)
		(B)		(C)-(A)	(D)	
全 県	▲ 9.1	▲ 13.7	▲ 23.7	-14.6	▲ 21.7	2.0
県 北	▲ 18.2	▲ 18.2	▲ 15.4	2.8	▲ 15.4	0.0
県 央	▲ 6.2	▲ 15.4	▲ 24.6	-18.4	▲ 19.7	4.9
県 南	▲ 7.2	▲ 8.9	▲ 27.8	-20.6	▲ 27.8	0.0

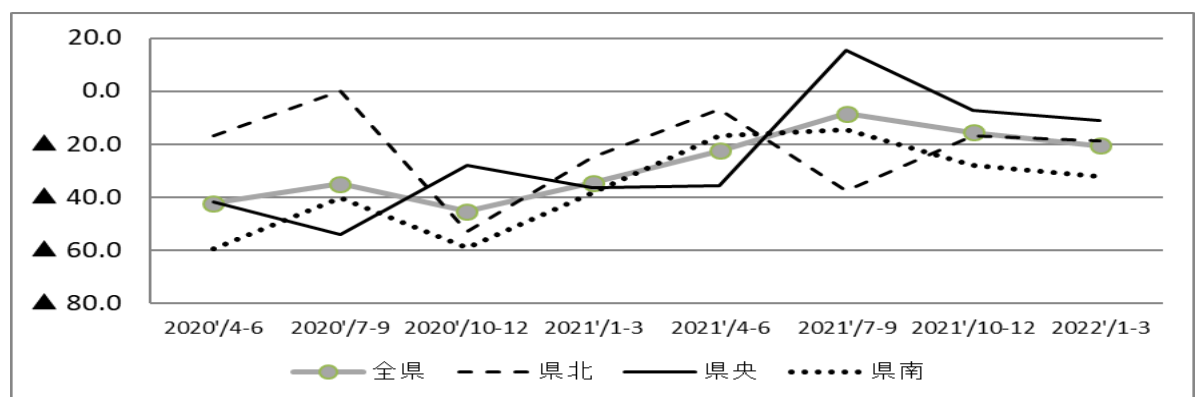


4. 受注残(未消化工事高)

今期(1-3月)のDI値は、前期比で全域が悪化した。

来期見通し(4-6月)は、今期比で県央が横ばい、県南、県北は改善を見通している。

	前期(10-12月)		今期(1-3月)			
	(A)	来期見通 (1-3月)	(C)	前期比	来期見通(4-6月)	今期比 (D)-(C)
		(B)		(C)-(A)	(D)	
全 県	▲ 15.6	▲ 20.7	▲ 20.6	-5.0	▲ 8.8	11.8
県 北	▲ 16.7	▲ 25.0	▲ 18.8	-2.1	▲ 12.5	6.3
県 央	▲ 7.2	▲ 14.3	▲ 11.1	-3.9	▲ 11.1	0.0
県 南	▲ 27.7	▲ 27.8	▲ 32.0	-4.3	▲ 4.0	28.0

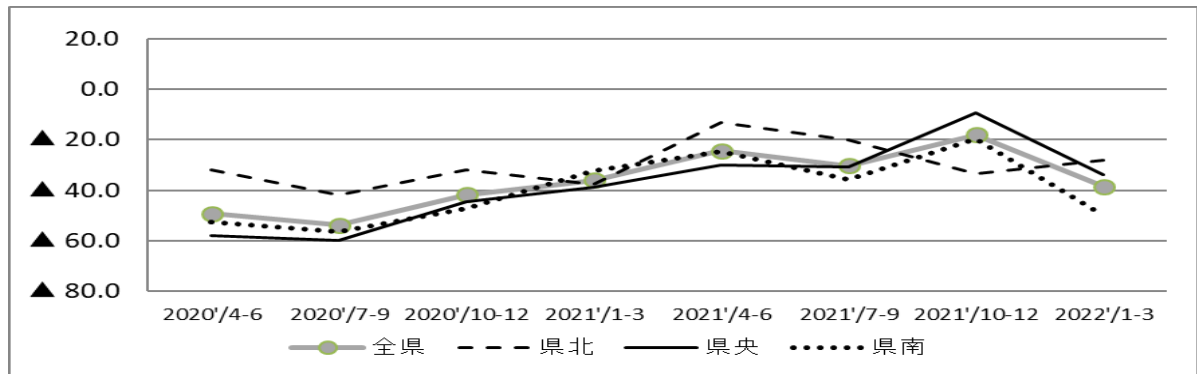


5. 採算(経常利益)

今期(1-3月)のDI値は、前期比で県南、県央が大幅に悪化した。特に県南はマイナス 30.4 ポイントと大幅に悪化した。これは本調査開始(平成 26 年 7-9 月期)以来最大のマイナス幅となった。一方、県北は改善した。

来期見通し(4-6月)は、今期比で県南、県央が改善を見通す一方、県北はわずかながら悪化を見通している。

	前期(10-12月)		今期(1-3月)			
	(A)	来期見通 (1-3月)	(C)	前期比	来期見通(4-6月)	今期比 (D)-(C)
		(B)		(C)-(A)	(D)	
全 県	▲ 18.0	▲ 30.9	▲ 38.5	-20.5	▲ 33.3	5.2
県 北	▲ 33.3	▲ 30.3	▲ 28.2	5.1	▲ 30.8	-2.6
県 央	▲ 9.1	▲ 27.3	▲ 33.9	-24.8	▲ 30.7	3.2
県 南	▲ 19.6	▲ 35.7	▲ 50.0	-30.4	▲ 37.7	12.3

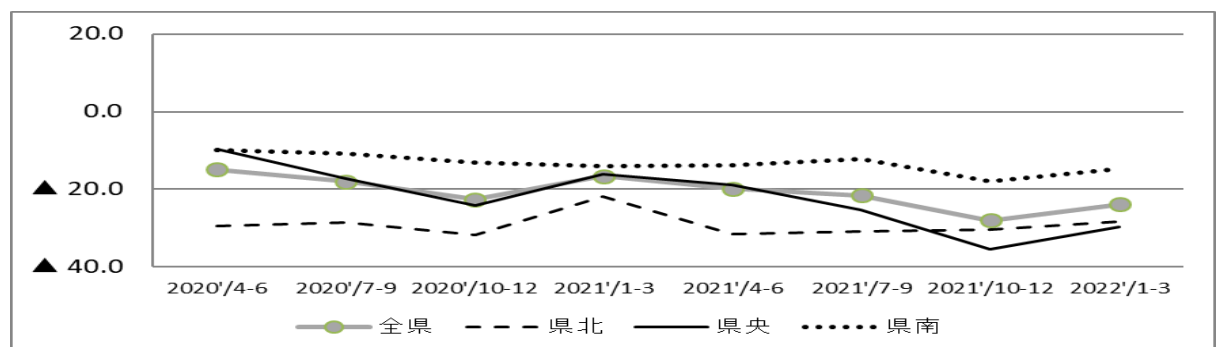


6. 従業員(含む臨時)

今期(1-3月)のDI値は、前期比で全域で不足感を縮小した。

来期見通し(4-6月)は、今期比で県北、県央で不足感の縮小を見通す一方、県南は不足感の拡大を見通している。

	前期(10-12月)		今期(1-3月)			
	(A)	来期見通 (1-3月)	(C)	前期比	来期見通(4-6月)	今期比 (D)-(C)
		(B)		(C)-(A)	(D)	
全 県	▲ 28.0	▲ 28.0	▲ 23.8	4.2	▲ 23.0	0.8
県 北	▲ 30.3	▲ 27.3	▲ 28.2	2.1	▲ 23.0	5.2
県 央	▲ 35.4	▲ 30.8	▲ 29.6	5.8	▲ 26.1	3.5
県 南	▲ 17.9	▲ 25.0	▲ 14.7	3.2	▲ 19.7	-5.0



IV. 産業別設備投資

全産業における今期(1-3月)の設備投資については、「実施した」とする企業は52件で、前期比で5件減少した。

産業別では、「実施した」とする中で最も多かったのは、建設業(16件)、次いでサービス業(13件)、製造業(10件)の順となっている。

全産業で、設備投資内容で最も多かったのは、「車両・運搬具」(23件)、次いで「OA機器」(12件)、「機械・設備・倉庫」(11件)の順となっている。

来期(4-6月)の計画では、全産業で「計画している」としたのは49件で、今期比で3件減少している。

産業別では、「計画している」とした中で最も多かったのは、製造業(12 件)、建設業(11 件)、サービス業(10 件)の順となっている。

全産業で、設備投資内容で最も多かったのは、「車両・運搬具」(14 件)、「機械・設備・倉庫」(13 件)、「建物・工場・店舗」(10 件)の順となっている。

設備投資状況

(件数)

		前期(10～12月)				今期(1～3月)					
		実施した (A)	実施しない	来期の計画(1-3月)		実施した (C)	実施しない	前期比 (C-A)	来期の計画(4-6月)		
				計画している (B)	計画していない				計画している (D)	計画していない	今期比 (D-C)
	全産業	57	100	46	111	52	116	▲ 5	49	119	▲ 3
	建設業	17	15	8	24	16	22	▲ 1	11	27	▲ 5
	製造業	10	19	12	17	10	21	0	12	19	2
	卸売業	9	23	6	26	6	24	▲ 3	9	21	3
	小売業	7	25	6	26	7	28	0	7	28	0
	サービス業	14	18	14	18	13	21	▲ 1	10	24	▲ 3

設備内容(複数回答)

(件数)

	全産業		建設業		製造業		卸売業		小売業		サービス業	
	今期	来期	今期	来期	今期	来期	今期	来期	今期	来期	今期	来期
①土地	5	4	2	2	0	1	0	0	0	0	3	1
②建物・工場・店舗	9	10	2	1	1	3	1	1	1	2	4	3
③機械・設備・倉庫	11	13	1	1	5	8	1	1	0	0	4	3
④車両・運搬具	23	14	7	2	4	1	4	4	4	3	4	4
⑤付帯施設	6	6	1	1	2	1	0	1	1	2	2	1
⑥OA機器	12	8	7	4	0	0	1	2	1	1	3	1
⑦福利厚生施設	1	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0
⑧その他	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合 計	67	57	20	12	12	14	8	9	7	8	20	14

V. 地域別設備投資

今期(1～3 月)の設備投資について、「実施した」企業は、前期比で全域が減少した。

設備投資で最も多いのは、全域で「車両・運搬具」[県北(5 件)、県央(10 件)、県南(8 件)]となった。

来期(4～6 月)の設備投資について、「計画している」企業は、今期比で県南が横ばい、県央が減少、県北が増加を見通している。

「計画している」企業の設備内容で最も多かったのは、県北で「機械・設備・倉庫」(5 件)、県央で「車両・運搬具」(8 件)、県南で「建物・工場・店舗」(7 件)となっている。

設備投資状況

(件数)

		前期(10～12月)				今期(1～3月)					
		実施した た (A)	実施しない	来期の計画(1-3月)		実施した た (C)	実施しない	前期比 (C-A)	来期の計画(4-6月)		
				計画している (B)	計画していない				計画している (D)	計画していない	今期比 (D-C)
	全 体	57	100	46	111	52	116	▲ 5	49	119	▲ 3
	県 北	12	21	6	27	11	28	▲ 1	13	26	2
	県 央	27	39	23	43	25	42	▲ 2	20	47	▲ 5
	県 南	18	40	17	41	16	46	▲ 2	16	46	0

設備内容(複数回答)

(件数)

	全県		県北		県央		県南	
	今期	来期	今期	来期	今期	来期	今期	来期
①土地	5	4	2	1	1	2	2	1
②建物・工場・店舗	9	10	3	3	3	1	5	7
③機械・設備・倉庫	11	13	3	5	6	6	3	2
④車両・運搬具	23	14	5	2	10	8	8	4
⑤付帯施設	6	6	2	1	3	4	0	1
⑥OA機器	12	8	3	4	7	2	2	2
⑦福利厚生施設	1	1	0	0	0	0	1	1
⑧その他	0	1	0	0	0	1	0	0
合 計	67	57	18	16	30	24	21	18

VI. 経営上の問題点

産業別における「経営上の問題点」は、建設業は「材料価格の上昇」、製造業は「原材料価格の上昇」、卸売業、小売業は「仕入価格の上昇」、サービス業は「従業員の確保難」を第1位に挙げている。

2位以下の項目では、建設業が「従業員の確保難」「熟練技術者の確保難」、製造業が「生産設備の不足・老朽化」「原材料費・人件費以外の経費の増加」、卸売業が「販売単価の低下・上昇難」、小売業が「消費者ニーズの変化への対応」「需要の停滞」「店舗の狭隘・老朽化」「人件費以外の経費の増加」、サービス業が「材料等仕入単価の上昇」「需要の停滞」「利用者ニーズの変化への対応」を問題点として挙げており、人材不足、人件費以外の経費の増加、原材料価格の上昇、仕入単価の上昇、需要の停滞、利用者ニーズの変化への対応、販売単価の低下・上昇難等が経営課題となっていることがうかがえる。

	1位		2位		3位	
建設業	材料価格の上昇		従業員の確保難 熟練技術者の確保難		材料価格の上昇	
	35.1%	13件	14.7%	5件	23.3%	7件
製造業	原材料価格の上昇		原材料価格の上昇		生産設備の不足・老朽化 原材料価格の上昇 原材料費・人件費以外の経費の増加	
	40.0%	12件	24.1%	7件	16.0%	4件
卸売業	仕入単価の上昇		販売単価の低下・上昇難		仕入単価の上昇	
	48.3%	14件	28.6%	8件	26.9%	7件
小売業	仕入単価の上昇		消費者ニーズの変化への対応 仕入単価の上昇		需要の停滞 消費者ニーズの変化への対応 店舗の狭隘・老朽化 人件費以外の経費の増加	
	23.5%	8件	20.6%	7件	13.3%	4件
サービス業	従業員の確保難		材料等仕入単価の上昇		需要の停滞 利用者ニーズの変化への対応	
	22.6%	7件	16.1%	5件	18.5%	5件

※ %は1位、2位、3位それぞれの回答数(=100%)の割合を示したものの。

参考:1～3位を累計した場合

	1位		2位		3位	
建設業	材料価格の上昇		従業員の確保難		熟練技術者の確保難	
	22.8%	23件	14.9%	15件	13.9%	14件
製造業	原材料価格の上昇		需要の停滞 生産設備の不足・老朽化		製品ニーズの変化への対応 熟練技術者の確保難	
	27.4%	23件	11.9%	10件	8.3%	7件
卸売業	仕入単価の上昇		需要の停滞		販売単価の低下・上昇難	
	28.9%	24件	15.7%	13件	13.3%	11件
小売業	仕入単価の上昇		消費者ニーズの変化への対応		需要の停滞	
	16.3%	16件	15.3%	15件	13.3%	13件
サービス業	利用者ニーズの変化への対応 材料等仕入単価の上昇 従業員の確保難		需要の停滞		燃料代の負担増加	
	13.5%	12件	11.2%	10件	7.9%	7件

※ %は1～3位までの総回答数(=100%)の割合を示したものの。

【付帯調査】

◎インボイス（適格請求書）制度に関する調査

Ⅶ. 認知度について

- ・ 認知度について聞いたところ、回答のあった 164 社中、②「ある程度知っている」が 77 社 47.0%、④「あまり知らない」が 44 社 26.8%、①「よく知っている」の 15 件 9.2% の順となった。

選 択 肢	社数	構成比 (%)
①よく知っている	15	9.2
②ある程度知っている	77	47.0
③どちらともいえない	14	8.5
④あまり知らない	44	26.8
⑤全く知らない	14	8.5
合 計	164	100.0

Ⅷ. 導入準備について

- ・ 導入準備について聞いたところ、回答のあった 164 社中、⑥「特に何もしていない」が 48 社 29.3%、④「情報収集は行っているが、具体的には取り掛かっていない」が 35 社 21.3%、②「準備に取り掛かっている」の 34 社 20.8% の順となった。

選 択 肢	社数	構成比 (%)
①既に準備は完了している	9	5.5
②準備に取り掛かっている	34	20.8
③導入を検討している	22	13.4
④情報収集は行っているが、具体的には取り掛かっていない	35	21.3
⑤情報提供を受けたことはあるが、どのような準備が必要かわからない	14	8.5
⑥特に何もしていない	48	29.3
⑦導入の必要がない	2	1.2
合 計	164	100.0

○導入の必要がない理由

- ・ 製造業
 - ・ 仕入、販売とも消費税は 10% のため【コンクリート】
- ・ 小売業
 - ・ すべて税理士にまかせているため【酒類】

IX. 具体的な取組事項(複数回答)

- ・ 質問Ⅷで①「既に準備は完了している」、②「準備に取り掛かっている」と回答のあった43社に具体的な取組事項について聞いたところ、①「事業者登録申請」が33件76.7%、次いで②「帳簿・請求書・納品書等の書式変更」が19件44.2%、③「システム整備」の13件30.2%の順となった。

選 択 肢	件数	構成比 (%)
① 事業者登録申請	33	76.7
② 帳簿・請求書・納品書等の書式変更	19	44.2
③ システム整備	13	30.2
④ 価格設定の見直し	3	7.0
⑤ 従業員教育	7	16.3
⑥ 取引先の免税事業者との調整	5	11.6
⑦ その他	1	2.3

○その他のコメント

- ・ 製造業
 - ・ 今までと特段大きく変わっていない【金属製品】

X. 取組にあたっての課題について(複数回答)

- ・ 質問Ⅷで③「導入を検討している」、④「情報収集は行っているが、具体的には取り掛かっていない」、⑤「情報提供を受けたことはあるが、どのような準備が必要かわからない」、⑥「特に何もしていない」と回答のあった119社に取組にあたっての課題について聞いたところ、①「経理や担当者が制度を理解する必要がある」が73件61.3%、②「受け取った請求書がインボイス要件を満たすか確認する必要がある」が41件34.5%、⑤「国などからの情報が少ない」の36件30.3%の順となった。

選 択 肢	件数	構成比 (%)
①経理や担当者が制度を理解する必要がある	73	61.3
②受け取った請求書がインボイス要件を満たすか確認する必要がある	41	34.5
③仕入先が免税事業者か確認する必要がある	23	19.3
④システム等の入替、改修にコストがかかる	19	16.0
⑤国などからの情報が少ない	36	30.3
⑥制度が複雑で何をしたらいいかわからない	16	13.4
⑦取引の関係により、免税事業者から課税事業者にならなければならない	7	5.9
⑧その他	1	0.8
⑨特になし	13	10.9

○その他のコメント

・小売業

- ・納品書（税込表示義務）、請求書（合計した金額に消費税）で生じる誤差の問題【燃料】

XI. 取組にあたって期待する支援について（複数回答）

- ・回答のあった162社（導入の必要がないと回答した2社を除く）に取組にあたって期待する支援について聞いたところ、①「セミナー等の説明会の開催」が63件38.9%、⑧「特になし」の49件30.2%、②「HP、リーフレット等による情報提供」が48件29.6%の順となった。

選 択 肢	件数	構成比（%）
①セミナー等の説明会の開催	63	38.9
②HP、リーフレット等による情報提供	48	29.6
③制度内容、申請方法に関する相談体制の充実	46	28.4
④専門家等による個別指導	19	11.7
⑤インボイス制度に対応した会計システムの紹介	28	17.3
⑥新型コロナの影響を考慮した制度開始の延長	25	15.4
⑦その他	0	0.0
⑧特になし	49	30.2

XII. 総括表

秋田県内中小企業景況調査 全産業別景気判断比較表(DI値) (第4四半期:2022年1月～3月)

(▲マイナス)

	業況						売上額・完成工事額						資金繰り					
	前期(10～12月)		今期(1～3月)				前期(10～12月)		今期(1～3月)				前期(10～12月)		今期(1～3月)			
	(A)	来期見通 (1～3月)	(C)	前期比 (C)－(A)	来期見通 (D)	今期比 (D)－(C)	(A)	来期見通 (1～3月)	(C)	前期比 (C)－(A)	来期見通 (D)	今期比 (D)－(C)	(A)	来期見通 (1～3月)	(C)	前期比 (C)－(A)	来期見通 (D)	今期比 (D)－(C)
		(B)																
全産業	▲ 19.6	▲ 32.5	▲ 36.8	-17.2	▲ 31.1	5.7	▲ 16.5	▲ 24.8	▲ 35.1	-18.6	▲ 24.4	10.7	▲ 9.1	▲ 13.7	▲ 23.7	-14.6	▲ 21.7	2.0
建設業	▲ 3.1	▲ 25.0	▲ 18.4	-15.3	▲ 15.8	2.6	▲ 12.5	▲ 15.6	▲ 21.1	-8.6	▲ 5.3	15.8	9.4	▲ 3.1	▲ 2.6	-12.0	▲ 13.2	-10.6
製造業	▲ 14.8	▲ 29.6	▲ 35.4	-20.6	▲ 16.1	19.3	▲ 3.4	▲ 6.9	▲ 29.0	-25.6	0.0	29.0	3.7	▲ 3.7	▲ 19.3	-23.0	▲ 6.5	12.8
卸売業	▲ 21.9	▲ 28.2	▲ 33.3	-11.4	▲ 46.7	-13.4	▲ 12.5	▲ 28.1	▲ 36.6	-24.1	▲ 40.0	-3.4	▲ 12.5	▲ 18.8	▲ 26.7	-14.2	▲ 30.0	-3.3
小売業	▲ 36.6	▲ 41.9	▲ 55.9	-19.3	▲ 42.8	13.1	▲ 31.3	▲ 43.7	▲ 54.3	-23.0	▲ 40.0	14.3	▲ 25.8	▲ 19.4	▲ 30.3	-4.5	▲ 26.5	3.8
サービス業	▲ 21.9	▲ 37.5	▲ 42.4	-20.5	▲ 36.4	6.0	▲ 21.8	▲ 28.1	▲ 35.3	-13.5	▲ 38.3	-3.0	▲ 18.7	▲ 21.9	▲ 42.4	-23.7	▲ 33.4	9.0

	受注残(未消化工事高)						採算(経常利益)						従業員(含む臨時)					
	前期(10～12月)		今期(1～3月)				前期(10～12月)		今期(1～3月)				前期(10～12月)		今期(1～3月)			
	(A)	来期見通 (1～3月)	(C)	前期比 (C)－(A)	来期見通 (D)	今期比 (D)－(C)	(A)	来期見通 (1～3月)	(C)	前期比 (C)－(A)	来期見通 (D)	今期比 (D)－(C)	(A)	来期見通 (1～3月)	(C)	前期比 (C)－(A)	来期見通 (D)	今期比 (D)－(C)
		(B)																
全産業	▲ 15.6	▲ 20.7	▲ 20.6	-5.0	▲ 8.8	11.8	▲ 18.0	▲ 32.6	▲ 38.5	-20.5	▲ 33.3	5.2	▲ 28.0	▲ 28.0	▲ 23.8	4.2	▲ 23.0	0.8
建設業	▲ 15.6	▲ 15.6	▲ 2.7	12.9	▲ 2.7	0.0	▲ 9.3	▲ 32.4	▲ 10.5	-1.2	▲ 10.6	-0.1	▲ 43.8	▲ 46.9	▲ 39.5	4.3	▲ 42.1	-2.6
製造業	▲ 15.4	▲ 26.9	▲ 43.4	-28.0	▲ 16.7	26.7	▲ 11.1	▲ 14.7	▲ 33.3	-22.2	▲ 22.6	10.7	▲ 11.1	▲ 7.4	▲ 6.4	4.7	▲ 12.9	-6.5
卸売業	—	—	—	—	—	—	▲ 3.1	▲ 30.3	▲ 40.0	-36.9	▲ 50.0	-10.0	▲ 6.3	▲ 12.5	▲ 3.4	2.9	▲ 3.3	0.1
小売業	—	—	—	—	—	—	▲ 40.7	▲ 45.5	▲ 55.9	-15.2	▲ 42.8	13.1	▲ 31.3	▲ 21.8	▲ 35.3	-4.0	▲ 17.1	18.2
サービス業	—	—	—	—	—	—	▲ 25.0	▲ 40.0	▲ 56.2	-31.2	▲ 45.2	11.0	▲ 45.2	▲ 48.4	▲ 29.0	16.2	▲ 35.4	-6.4

※ DI値:「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

:従業員の「過剰」から「不足」したとする企業割合を差し引いた値である。

秋田県内中小企業景況調査結果(業種別比較表)

(第4四半期:2022年1月～3月)

1. 今期の状況

業 種 \ 項 目		業 況			売上額・完成工事額			資 金 繰 り			受注残(未消化工事高)			採算(経常利益)			従業員(含む臨時)		
		好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	過剰	適正	不足
全産業	実数	11	83	72	28	53	87	8	110	47	8	38	22	14	73	77	14	97	53
	%	6.6	50.0	43.4	16.7	31.5	51.8	4.8	66.7	28.5	11.8	55.9	32.4	8.5	44.5	47.0	8.5	59.1	32.3
	DI	▲ 36.8			▲ 35.1			▲ 23.7			▲ 20.6			▲ 38.5			▲ 23.8		
建設業	実数	4	23	11	7	16	15	3	31	4	7	23	8	6	22	10	0	23	15
	%	10.5	60.5	28.9	18.4	42.1	39.5	7.9	81.6	10.5	18.4	60.5	21.1	15.8	57.9	26.3	0.0	60.5	39.5
	DI	▲ 18.4			▲ 21.1			▲ 2.6			▲ 2.7			▲ 10.5			▲ 39.5		
製造業	実数	2	16	13	6	10	15	2	21	8	1	15	14	3	14	13	6	17	8
	%	6.5	51.6	41.9	19.4	32.3	48.4	6.5	67.7	25.8	3.3	50.0	46.7	10.0	46.7	43.3	19.4	54.8	25.8
	DI	▲ 35.4			▲ 29.0			▲ 19.3			▲ 43.4			▲ 33.3			▲ 6.4		
卸売業	実数	3	14	13	5	9	16	0	22	8				3	12	15	4	21	5
	%	10.0	46.7	43.3	16.7	30.0	53.3	0.0	73.3	26.7				10.0	40.0	50.0	13.3	70.0	16.7
	DI	▲ 33.3			▲ 36.6			▲ 26.7						▲ 40.0			▲ 3.4		
小売業	実数	0	15	19	3	10	22	1	21	11				0	15	19	1	20	13
	%	0.0	44.1	55.9	8.6	28.6	62.9	3.0	63.6	33.3				0.0	44.1	55.9	2.9	58.8	38.2
	DI	▲ 55.9			▲ 54.3			▲ 30.3						▲ 55.9			▲ 35.3		
サービス業	実数	2	15	16	7	8	19	2	15	16				2	10	20	3	16	12
	%	6.1	45.5	48.5	20.6	23.5	55.9	6.1	45.5	48.5				6.3	31.3	62.5	9.7	51.6	38.7
	DI	▲ 42.4			▲ 35.3			▲ 42.4						▲ 56.2			▲ 29.0		

※ DI値:「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

:従業員の「過剰」から「不足」したとする企業割合を差し引いた値である。

秋田県内中小企業景況調査結果(業種別比較表)

(第4四半期:2022年1月～3月)

2. 来期の見通し

業 種 \ 項 目		業 況			売上額・完成工事額			資 金 繰 り			受注残(未消化工事高)			採算(経常利益)			従業員(含む臨時)		
		好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	過剰	適正	不足
全産業	実数	11	93	63	25	77	66	8	114	44	8	46	14	14	82	69	14	99	52
	%	6.6	55.7	37.7	14.9	45.8	39.3	4.8	68.7	26.5	11.8	67.6	20.6	8.5	49.7	41.8	8.5	60.0	31.5
	DI	▲ 31.1			▲ 24.4			▲ 21.7			▲ 8.8			▲ 33.3			▲ 23.0		
建設業	実数	2	28	8	6	24	8	1	31	6	4	29	5	4	26	8	0	22	16
	%	5.3	73.7	21.1	15.8	63.2	21.1	2.6	81.6	15.8	10.5	76.3	13.2	10.5	68.4	21.1	0.0	57.9	42.1
	DI	▲ 15.8			▲ 5.3			▲ 13.2			▲ 2.7			▲ 10.6			▲ 42.1		
製造業	実数	4	18	9	8	15	8	1	27	3	4	17	9	4	16	11	4	19	8
	%	12.9	58.1	29.0	25.8	48.4	25.8	3.2	87.1	9.7	13.3	56.7	30.0	12.9	51.6	35.5	12.9	61.3	25.8
	DI	▲ 16.1			0.0			▲ 6.5			▲ 16.7			▲ 22.6			▲ 12.9		
卸売業	実数	1	14	15	3	12	15	1	19	10				1	13	16	5	19	6
	%	3.3	46.7	50.0	10.0	40.0	50.0	3.3	63.3	33.3				3.3	43.3	53.3	16.7	63.3	20.0
	DI	▲ 46.7			▲ 40.0			▲ 30.0						▲ 50.0			▲ 3.3		
小売業	実数	1	18	16	2	17	16	1	23	10				1	18	16	3	23	9
	%	2.9	51.4	45.7	5.7	48.6	45.7	2.9	67.6	29.4				2.9	51.4	45.7	8.6	65.7	25.7
	DI	▲ 42.8			▲ 40.0			▲ 26.5						▲ 42.8			▲ 17.1		
サービス業	実数	3	15	15	6	9	19	4	14	15				4	9	18	2	16	13
	%	9.1	45.5	45.5	17.6	26.5	55.9	12.1	42.4	45.5				12.9	29.0	58.1	6.5	51.6	41.9
	DI	▲ 36.4			▲ 38.3			▲ 33.4						▲ 45.2			▲ 35.4		

※ DI値:「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

:従業員の「過剰」から「不足」したとする企業割合を差し引いた値である。

秋田県内中小企業景況調査結果（地域別比較表）

（第4四半期：2022年1月～3月）

1. 今期の状況

業 種	項 目	業 況			売上額・完成工事額			資 金 繰 り			受注残(未消化工事高)			採算(経常利益)			従業員(含む臨時)		
		好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	過剰	適正	不足
全 県	実数	11	83	72	28	53	87	8	110	47	8	38	22	14	73	77	14	97	53
	%	6.6	50.0	43.4	16.7	31.5	51.8	4.8	66.7	28.5	11.8	55.9	32.4	8.5	44.5	47.0	8.5	59.1	32.3
	DI	▲ 36.8			▲ 35.1			▲ 23.7			▲ 20.6			▲ 38.5			▲ 23.8		
秋 田	実数	4	34	28	13	22	32	4	41	20	4	16	7	6	31	28	4	37	23
	%	6.1	51.5	42.4	19.4	32.8	47.8	6.2	63.1	30.8	14.8	59.3	25.9	9.2	47.7	43.1	6.3	57.8	35.9
	DI	▲ 36.3			▲ 28.4			▲ 24.6			▲ 11.1			▲ 33.9			▲ 29.6		
大 館	実数	2	13	5	6	4	10	1	16	3	0	5	4	2	9	9	1	8	11
	%	10.0	65.0	25.0	30.0	20.0	50.0	5.0	80.0	15.0	0.0	55.6	44.4	10.0	45.0	45.0	5.0	40.0	55.0
	DI	▲ 15.0			▲ 20.0			▲ 10.0			▲ 44.4			▲ 35.0			▲ 50.0		
能 代	実数	2	10	7	2	8	9	1	13	5	2	4	1	3	9	7	2	14	3
	%	10.5	52.6	36.8	10.5	42.1	47.4	5.3	68.4	26.3	28.6	57.1	14.3	15.8	47.4	36.8	10.5	73.7	15.8
	DI	▲ 26.3			▲ 36.9			▲ 21.0			14.3			▲ 21.0			▲ 5.3		
大 曲	実数	2	6	12	4	3	13	0	15	5	0	4	4	2	5	13	2	11	7
	%	10.0	30.0	60.0	20.0	15.0	65.0	0.0	75.0	25.0	0.0	50.0	50.0	10.0	25.0	65.0	10.0	55.0	35.0
	DI	▲ 50.0			▲ 45.0			▲ 25.0			▲ 50.0			▲ 55.0			▲ 25.0		
横 手	実数	0	9	11	1	8	11	1	15	4	1	4	3	0	11	8	3	11	6
	%	0.0	45.0	55.0	5.0	40.0	55.0	5.0	75.0	20.0	12.5	50.0	37.5	0.0	57.9	42.1	15.0	55.0	30.0
	DI	▲ 55.0			▲ 50.0			▲ 15.0			▲ 25.0			▲ 42.1			▲ 15.0		
湯 沢	実数	1	11	9	2	8	12	1	10	10	1	5	3	1	8	12	2	16	3
	%	4.8	52.4	42.9	9.1	36.4	54.5	4.8	47.6	47.6	11.1	55.6	33.3	4.8	38.1	57.1	9.5	76.2	14.3
	DI	▲ 38.1			▲ 45.4			▲ 42.8			▲ 22.2			▲ 52.3			▲ 4.8		

※ DI値：「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

：従業員の「過剰」から「不足」したとする企業割合を差し引いた値である。

秋田県内中小企業景況調査結果（地域別比較表）

（第4四半期：2022年1月～3月）

2. 来期の見通し

業 種	項 目	業 況			売上額・完成工事額			資 金 繰 り			受注残(未消化工事高)			採算(経常利益)			従業員(含む臨時)		
		好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	過剰	適正	不足
全 県	実数	11	93	63	25	77	66	8	114	44	8	46	14	14	82	69	14	99	52
	%	6.6	55.7	37.7	14.9	45.8	39.3	4.8	68.7	26.5	11.8	67.6	20.6	8.5	49.7	41.8	8.5	60.0	31.5
	DI	▲ 31.1			▲ 24.4			▲ 21.7			▲ 8.8			▲ 33.3			▲ 23.0		
秋 田	実数	2	43	22	11	34	22	4	45	17	3	18	6	4	37	24	5	38	22
	%	3.0	64.2	32.8	16.4	50.7	32.8	6.1	68.2	25.8	11.1	66.7	22.2	6.2	56.9	36.9	7.7	58.5	33.8
	DI	▲ 29.8			▲ 16.4			▲ 19.7			▲ 11.1			▲ 30.7			▲ 26.1		
大 館	実数	2	11	7	1	9	10	1	14	5	1	5	3	1	10	9	2	7	11
	%	10.0	55.0	35.0	5.0	45.0	50.0	5.0	70.0	25.0	11.1	55.6	33.3	5.0	50.0	45.0	10.0	35.0	55.0
	DI	▲ 25.0			▲ 45.0			▲ 20.0			▲ 22.2			▲ 40.0			▲ 45.0		
能 代	実数	2	11	6	4	9	6	1	15	3	1	5	1	2	11	6	2	15	2
	%	10.5	57.9	31.6	21.1	47.4	31.6	5.3	78.9	15.8	14.3	71.4	14.3	10.5	57.9	31.6	10.5	78.9	10.5
	DI	▲ 21.1			▲ 10.5			▲ 10.5			0.0			▲ 21.1			0.0		
大 曲	実数	4	7	9	6	5	9	0	14	6	1	5	2	4	5	11	1	10	9
	%	20.0	35.0	45.0	30.0	25.0	45.0	0.0	70.0	30.0	12.5	62.5	25.0	20.0	25.0	55.0	5.0	50.0	45.0
	DI	▲ 25.0			▲ 15.0			▲ 30.0			▲ 12.5			▲ 35.0			▲ 40.0		
横 手	実数	1	11	8	2	9	9	1	16	3	2	4	2	2	10	8	2	13	5
	%	5.0	55.0	40.0	10.0	45.0	45.0	5.0	80.0	15.0	25.0	50.0	25.0	10.0	50.0	40.0	10.0	65.0	25.0
	DI	▲ 35.0			▲ 35.0			▲ 10.0			0.0			▲ 30.0			▲ 15.0		
湯 沢	実数	0	10	11	1	11	10	1	10	10	0	9	0	1	9	11	2	16	3
	%	0.0	47.6	52.4	4.5	50.0	45.5	4.8	47.6	47.6	0.0	100.0	0.0	4.8	42.9	52.4	9.5	76.2	14.3
	DI	▲ 52.4			▲ 41.0			▲ 42.8			0.0			▲ 47.6			▲ 4.8		

※ DI値：「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

：従業員の「過剰」から「不足」したとする企業割合を差し引いた値である。

参 考

県内景況調査に対する各企業のコメント

I 今期の特徴（2022年1～3月）

1 建設業	
・今期は減収増益で進んでいる。好利益工事もあるが何とか頑張っている【一般土木建築工事】	県央
・国の政策等により年度をまたいでの工事の発注を各官庁が指示している。景気対策のひとつではないか【一般土木建築工事】	
・コロナがなかなか収まらず、引き合いに影響しているようだ【木造建築工事業】	
・冬の工事で降雪が多く、除雪しながらの現場だったので人件費、その他の経費が多くかかり、採算が取れなかった【土木工事】	
・年末の未成工事の増加により今期の完成工事額は増加【塗装工事】	
・降雪量増加により、除雪関連の工事で完成工事高が増加した【一般電気工事業】	
2 製造業	
・オミクロン株感染拡大により首都圏の業務用向け出荷がさらに落ち込んでいる。比較的堅調であった家庭用も息切れが感じられる【清酒】	県央
・コロナの影響、市況の停滞、水揚げの減少等環境の悪化による売上減少【水産物製造・卸売】	
・3月までは悪くない【印刷】	
・新型コロナの影響により首都圏の工事に遅れが生じているようである。それに加えて原材料をはじめとする資材等の高騰により、利益率の悪化が続いている【金属製品】	
・資材高騰により売上は増加したが、利益につながらない【金属製品】	
・季節要因による売上減少【綱】	
・鉄道部門はJR本体の旅客の落ち込みの影響もあり、売上水準は低かったが、環境部門の売上増でカバーした形になった【機械器具】	県北
・売上は受注残少なく、減少。採算についてはさほど差は無い【コンクリート】	県南
3 卸売業	
・インフレによる打撃が大きい【金物】	県北
・前年12月まではいくぶん回復していたが、1月からはガタ落ち【清涼飲料】	
・利益率が下がった【左官資材】	県南
・資材高騰により採算悪化【建築資材】	
4 小売業	
・コロナの影響と長引く冬の影響で人出が少なく、更に目的買いの購入も少なく、厳しい状況だった【婦人靴】	県央
・金融機関から少額ながら融資を受けた。消費税等税金の支払いもあるが、多少は楽になったのは事実【茶】	
・半導体の供給不足に加え、国内での新型コロナ(オミクロン株)の感染拡大を受け、サプライチェーンからの部品供給が停滞し、度重なる生産ラインの停止により、今期の新車販売台数が前年の約8割程度となることから減収・減益を見込む【自動車】	
・2月は緊急事態宣言の時と同等の落ち込みだったが、3月は少し持ち直した【生花】	
・管内でコロナ感染者が多くなってきているため、売上が2月初旬より著しく減少している【生花】	県北
・コロナで先が見えない【酒類】	
・売上額が増加した。建築業界の好調に便乗できた感がある【塗料】	県南
・増収・減益【燃料】	
・コロナの影響で酒類は前年同様厳しい。オンライン通販で売上を維持【食料品】	

5 サービス業	
・石油製品の価格が高騰し、経営の負担となっており、手の施しようがない【普通洗濯】	県央
・昨年以上に中古車市場が厳しい【自動車一般整備業】	
・降雪量が多かったので除排雪業務の売上が増えた【ビルメンテナンス】	
・売上は増加しているが、コロナ以前の水準まではほど遠い状況。高速バスは減便継続【運輸】	
・定期傭船契約（内航海運代理業）開始と風車部材取扱数量増加により前年同期比約10%増加【運輸】	
・コロナによる飲食自粛で売上減少【食堂】	県北
・宿泊が1月のみ昨年より上がったが（それでもコロナ前の30%程度）、レストランや宴会場は、昨年よりひどい状況で売上も悪化（昨年の半分以上）【ホテル】	県南
・コロナの影響による売上減少【ホテル】	
・1、2月はコロナの第6波により客足が減少した【写真館】	

Ⅱ 来期の見通し（2022年4～6月）

1 建設業	
・通常の営業活動を続けているが、官公受注もさらに進めたい【一般土木建築工事】	県央
・官庁工事では落札状態によるが民間工事では世界の状況によるのではないかと？	
・資材価格の値上がりが見えすぎる。15%位は普通に上がる【木造建築工事】	
・来期は完成する工事はなく、工期が10月頃までのため、特に変化はない【土木工事】	
・材料の流通等不確定要素が多い。見通しが見つからない【塗装工事】	
・コロナ禍で先行きの見通しは立てづらいが、手持分で前年並の業績を維持できる見通し【一般電気工事】	
・設備改修工事の割合が増える見込【一般電気工事】	
・完成工事額は増加するが、採算面は物価高により悪化するという【建設工事】	県北

2 製造業	
・オミクロン株の感染により、業務用回復は望み薄。原油や資源価格の高騰による資材コストや運賃上昇が強まる。インフレ懸念から消費が冷え込むのではないだろうか【清酒】	県央
コロナが落ち着き、天候回復による漁況及び市況の活性化を期待している。但し、ロシアの状況によっては変化あり【水産物製造・卸売】	
・コロナの影響は続く見通し【婦人服製造業】	
・コロナの終息次第である【印刷】	
・歯が見えないので売上増加、採算、業況の好転を望んでいる【印刷】	
・資材高の継続を見込む【消防器具】	
・製造コストの上昇分を製品価格にすべて転嫁できておらず、しばらくはこの状況が続くと考え【金属製品】	
・資材高騰、納期遅れにより中止、延期案件が増える見通し【金属製品】	
・大きな変化はない見通し【機械器具】	
・工事発注等控えており、売上、採算ともに上向きとなる見込【コンクリート】	県北
・人の流れがあれば売上が増えると思う【乾麺】	県南

3 卸売業	
・コロナが収束し、道の駅や温泉への人の流れを期待する【雑貨】	県央
・物価上昇がどもまで続くのかが景気を左右する【金物】	県北
・見通し立たず【清涼飲料】	
・仕入商品の値上げと販売単価の上昇に多少ズレがあり、採算に多少なりとも影響してくると思われる【左官資材】	県南
・商品が順調に入荷すれば売上額増加の見込【珍味】	
・資材高騰が続く、需要の低迷、採算悪化が続く見通し【建築資材】	

4 小 売 業	
・コロナ感染者数が全国的に減少すれば前年並に回復すると予想する【婦人靴】	県央
・コロナの影響で外出する機会が少ないため、自分を着飾る必要がなく、買い物に出てこなくなっ【婦人服】	
・業界の最大のイベントの時期を迎える。年々消費者の食い付きは悪くなっているが、とにかく盛り上げて季節感を感じていただきたい【茶】	
・新型コロナ(オミクロン株)の影響は解消されているが、半導体不足の影響は当面続くとされ、メーカーの生産ラインが正常化したとしても、納期の長期化の解消には時間を要することから前年同期の新車販売台数を確保することは困難となり、引き続き減収・減益を見込む【自動車】	
・コロナ前に戻るにはほど遠く、変わらず低迷が続きそう【生花】	
・状況が戻れば必然的に戻るところは戻らと思う【生花】	県北
・コロナで大変。大型店の安売で客が来ない【酒類】	
・積雪の多かった次のシーズンは、塗料需要の期待が高い【塗料】	県南
・増収・減益を見込む【燃料】	
・コロナの影響をどの程度受けるかこの先未知数【金物】	
・4月に薬価改定があり、経常利益が減少する見通し【薬品】	
・春から値上げ商品が多々あり、購入動向が懸念される【食料品】	
5 サービス業	
・コロナのため予想がつかない【リネンサプライ業】	県央
・今期と同様を見込む【普通洗濯】	
・コロナの状況に左右されることに変わりはないが、貸切バスがいくらかでも復調になれば上向く可能性もある【運輸】	
・入札によってどれだけ売上が伸ばせるかわからないので何とも言えない【ビルメンテナンス】	
・コロナ、材料費の高騰で売上減少を見込む【食堂】	
・雪が深く、山への測量ができなかったが、4月に予定が入っている【測量】	県北
・コロナウイルスで全く見通しが立たない。周辺の飲食店の方ともお話しするが、そろそろ店をたたむところかてくるかもしれない、と。危機的な状況だと予想する【ホテル】	県南
・コロナの影響による売上減少が続く見通し【冠婚葬祭】	
・コロナが落ちつかなければ採算は厳しいと思う【写真館】	